

1. 園の教育目標

たくましく 自立できる子どもに育てよう

- ・心身ともにいきいきした子
- ・意欲的に遊べる子
- ・心ゆたかな子
- ・個性を認めあい、たすけあえる子

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

めざす子ども像…自分の思いを安心して表現できる子どもを育てる

教師の努力目標…子どもと子どもがつながる集団づくりを研究する

(努力目標をテーマに園内研修を行い、めざす子ども像を達成する)

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	結果	理由
(1)努力目標を達成するため、園内研修を計画的に実施する	A	園内研修を計画的に実施し、全員が研究保育を行った。教師の意識や実践力が向上したと共に、幼稚園教育研究会の研究内容も深め、保育の充実に繋がった。
(2)ねらいや指導内容を明確にし、教材の精選・工夫を行っている	B	子どもの姿を捉え、発達過程を大切にしながら行事や保育内容の「ねらい」を明確化し、共通認識をして保育に取り組んだ。
(3)個々の幼児の評価や課題について全職員で話し合い、保育をしている	B	一人ひとりの子供の姿や育ちについて全職員で共通認識し、課題や支援内容について明確にすることができた。また保護者との連携を深めた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	認定こども園となり、いろいろなシステムの変更に応じて保育の組み立てを行った。3歳児保育が始まり、学年別の保育となった中で「ねらい」を明確化し、一人ひとりの子供の思いに寄り添って人とかかわる力をつける援助をおこなった。子供達は安心して自分の思いを出し、互いを認め合う姿が見られるようになった。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている

C 取り組まれているが、成果は十分でない D 取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的取り組み方法
1. 遊びの環境について考察し、見直しをもって保育に取り組む	発達過程を確認するとともに、打ち合わせを丁寧に行い、子供の姿やねらいに応じた環境のあり方を考え、職員の共通認識を図る。
2. 特別支援教育の充実を図る	一人ひとりの子供の姿や育ちを丁寧に捉え、課題や支援方法を明確にする。また家庭や関係機関との連携を密にとり、よりよい支援方法を共通理解しながら保育に努める。